

全国救急隊員シンポジウムが相模原市で開催

救急企画室

1 救急隊員シンポジウムとは

「第23回全国救急隊員シンポジウム」が、一般財団法人救急振興財団と相模原市消防局との共催により、1月29日(木)と30日(金)の2日間にわたって、相模原市(相模女子大学グリーンホール・小田急ホテルセンチュリー相模大野・bono相模大野 市民・大学交流センター)で開催されました。

この「全国救急隊員シンポジウム」は、我が国の救急業務の充実と発展に資することを目的に全国の救急隊員や消防職員、都道府県や消防学校の職員、その他関連する医療従事者等、救急業務に関係する者が一堂に会し、実務的観点からの研究発表や意見交換を行っているもので、平成5年より毎年1回、救急振興財団と開催地消防本部とで共同開催されており、今年で23回を数えました。



1月30日(2日目)の会場外の様子



オープニングセレモニーでの地元消防団による太鼓

2 今回のシンポジウムの内容について

相模原市の市制施行60周年の記念事業の一環として開催された今回のシンポジウムは、「救命の未来予想図をいま!～はやぶさの故郷さがみはらから～」というテーマを掲げて開催されました。

開会式直後の特別講演では「救命の未来予想図」というテーマで北里大学の浅利靖教授から今後の救急救命士制度の展望や消防行政が行う救急業務の社会的な位置付け、さらには病院前救護を取り巻く諸課題への対応等についての貴重なご講演をいただきました。

また、市民公開講座「救急車を呼ぶ前に～市民が行うトリアージ～」では、119番通報や病院受診に至る前の

段階に市民が利用できる「緊急度判定のためのシステム」の一環として取り組んでいる救急相談センター(救急安心センター)(受付番号#7119)、ならびにWEB上で使用できる自己判断ツールとしての「救急受診ガイド」について紹介し、現況と課題について一緒に考えていただきました。

ライブセッションでは、「静脈路確保の成功率を上げる方法」「異常分娩における対応方法」についての実技指導が行われ、それぞれの会場は、立ち見ができるほどの盛況ぶりでした。



静脈路確保困難モデル体験



異常分娩体験

3 地元関係者の熱心な取組

当日は、雪の降り積もる足元の悪い気象条件にもかかわらず、7,000名(2日間延総人数)を超える関係者が来場し、盛大なシンポジウムとなりました。これもひとえに、主催者である一般財団法人救急振興財団や相模原市消防局をはじめ、地元医師会等関係各機関の皆様が一致協力してシンポジウム運営にあたられたご尽力の賜物であるといえます。今後もこのシンポジウムが救急業務の更なる充実と発展に資するものとなることを期待しています。

なお、次回の「第24回全国救急隊員シンポジウム」は、平成27年12月3日(木)及び4日(金)の2日間、北海道札幌市において開催されます。

問い合わせ先

消防庁救急企画室 濱砂
TEL: 03-5253-7529